

[報 告]

第7回テラフロップワークショップ報告

東北大学情報シナジー機構情報シナジーセンター 小林広明

情報シナジー機構情報シナジーセンター（以下、本センター）は、情報科学研究科とドイツシュトゥットガルト大学高性能計算センターとの共同主催で、2007年11月21日（水）～11月22日（木）の両日、「計算科学の可能性と次世代スーパーコンピュータ研究開発動向を探る」をテーマに、第7回テラフロップワークショップ（7th Teraflop Workshop）を開催しました。本ワークショップは、国際的に活躍している計算科学・計算機科学の研究者・技術者を招いて、高性能・高効率大規模科学計算に関する最新の研究成果の情報交換を行うとともに、今後のスーパーコンピュータ設計のあり方を議論することを目的として、2006年以降、毎年シュトゥットガルト大学と東北大学で交互に開催されてきました。

第7回テラフロップワークショップは16の招待講演から構成され、航空・宇宙、原子力、材料、海洋・気象などの分野で国際的に活躍する研究者から、スーパーコンピュータを活用した最新の研究成果の発表がありました。また、2010年にペタフロップスを超える実効性能を達成させることを目標に研究開発が進められている次世代スーパーコンピュータプロジェクトの現状と今後の展開に関する報告、NAREGIプロジェクトでのグリッド研究開発の取り組み、そして本センターが本年3月に導入する最新のベクトル型スーパーコンピュータSX-9に関する要素技術とセンター利用者の実コードを用いたSX-9の性能予測などの興味深い講演もありました。

2日間のワークショップでは、雪にもかかわらず延べ159名の参加者を得て、活発な議論が交わされました。第8回ワークショップは、2008年4月にシュトゥットガルト大学で行われる予定です。

